平成26年 9 月19日(金)　発行

高大附高だより

編集　高崎商科大学附属高等学校父母の会
〒370-0803 高崎市大橋町237-1　TEL (027) 322-2827

平成26年度 全国高等学校総合体育大会

インターハイ

煌(きら)めく青春 南関東総体2014

開催期間：8/1(金)～8/20(水)

（ソフトテニスは7/26（土）～8/3（日）、ボートは7/30（水）～8/3（日））

（写真提供）
森本純生校長、他

新校舎完成

第74号
2014・9

ご挨拶

父母の会会長
吉原秀忠

平成二十六年度、父母の会会長の吉原と申します。子ども達が充実した高校生活が送れますよう新役員一同、全力で頑張って活動していく所存でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。すでに五月の総会においては皆様のご協力のもと議事も滞りなく進めることが出来ました。大変ありがとうございました。そして、その総会において可決された緊急メール配信サービス「オクレンジャー」の使用においても順調に始まりました。今年は今までに経験をしたことのない大雪や集中豪雨がありました。今後もこのような災害時を含めこの「オクレンジャー」の活用も増えていくのではないかと思います。そして子ども達の安全が確保されることを願います。

また六月下旬から行なわれた学年・学級懇談会では、活発な意見交換がなされ、とても有意義な懇談会を行なうことが出来ました。これは会員の皆様の熱心な気持ちが現れた結果であります。また今年度は二年に一度の学園祭の開催の年であります。生徒達の様々な催しを楽しみにしている方々が沢山いらっしゃるでしょう。多くの来校者が見込まれる中是非とも商大附高らしい学園祭が出来るよう父母の会でも最大限お手伝いをさせていただきます。会員の皆様のご来校を心よりお待ち申し上げております。

さて、本校生徒の皆様におかれましては勉強並びに部活動において毎年前年を上回る優秀な成績を上げております。今後さらなる活躍を期待するところであります。また三年生の皆さんは自分の決めた進路に向けて挑戦をする時期になってまいりました。父母の会でも皆さんが体調管理も含め今まで本校で培った実力を十二分に発揮し、進学・就職共に目標を達成出来ますように出来る限り応援してまいりますので、後悔の無いよう頑張って下さい。そして、その結果や経験を後輩たちに受け継いで下さい。それが商大附高の歴史であり伝統へとなって行くものと確信しております。更に皆さんがその伝統を胸に社会に羽ばたき活躍することを願っております。

結びに、商大附高の発展と会員皆様のご多幸をご祈念申し上げます。

ご挨拶

理事長・校長
森本純生

父母の会の皆様方には日頃より、本校の教育に対しましてご理解・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、早いもので夏休みも終わり二学期を迎えておりますが、三年生は最上級生らしくなり、一年生は入学時の子どもらしさからしっかりとした高校生に成長しております。校内にも活気がみなぎっております。

五月の父母の会総会では平成二十六年度の新役員も決まり、年間行事のスタートとして学年学級懇談会が行われました。それぞれの学年がテーマを掲げ熱心に話し合いをしていただき高出席率で終了することができました。学年・クラス役員の皆様には大変お世話になりました。

学校の夏休みは行事が大変多く、三週間の海外研修を皮切りに特進の勉強合宿・登校講座・最高の芸術に接するための二年生の劇団四季の観劇・S科のインターンシップ・学校行事であります中学生を招いてのオープンスクール、またクラブ活動の練習、各大会等の活動で生徒は忙しくも充実した夏休みを過ごしたことと思います。しかし、今夏は昨年よりもさらに酷暑で大変な日々があったことと思います。

私は、例年通り学校を代表してインターハイの応援に行かせていただきました。今回の開催は東京近郊、それぞれの開催地千葉県・神奈川県に空手道・フェンシング・アーチェリー会場へと生徒の活躍をカメラに収めつつ応援してまいりました。各種目共、常連校を相手に選手諸君はよく頑張りました。結果は別紙のとおりです。

また、正面に管理棟が完成致しました。それに伴いまして、お盆の期間中に引越し作業が行われ、片づけながらの二学期を迎えております。まだ、しばらくは整理等でご迷惑をおかけいたしますがご了承願います。管理棟には職員室・事務室・会議室の他に、よりきめ細かい教育を行うための進路資料室・カウンセラー室・面談室・質問コーナーを充実させました。ご来校の際に是非ご覧下さい。

今年度は、文化祭開催の年に当たります。十月十八・十九日の文化祭に向けて生徒実行委員会・生徒会を中心に準備を進めております。展示発表の充実と同時に父母の会の出店・同窓会のコーナー等々、皆様の協力を仰ぎながら思い出に残る楽しい文化祭にしていきたいと思います。保護者の皆様のご参加をお待ちしております。

終わりになりますが、本校では、頑張った者、自ら努力する者には学校として大いに応援していくことを実施しております。高校時代の三年間を充実した結果の出る三年間にするために保護者の皆さんと学校とが一層の連携を強め、愛情を持って生徒の教育に当りたいと思っております。昨年に増してのご後援をよろしくお願い申し上げます。

学年委員長挨拶

三学年委員長　高見澤　佳子

今年度三学年委員長を務めさせて頂くことになりました。宜しくお願い致します。

高校の三年間は、あっと言う間に過ぎると申しますが、親として本当にその通りだと実感しております。特に三年生は、人生の節目となる大切な一年です。今までの高校生活で勉強、部活動に励み培ってきたものを土台に新たな、進路に向って行かなければなりません。それぞれの目標がより良い形で実を結ぶように学校・先生方・家庭が連携して、子ども達を応援していきましょう。

様々な情報が入り、迷う事、悩む事も多い難しい時期でもある子ども達を人生の先輩として、一緒に考えていければと思います。

子ども達は、本当に成長しています。卒業すれば、身心共に親元を離れ、自立した大人への一歩を進んでいきます。たとえ、言葉にしなくても子ども達は、私達以上に大きな期待と不安を抱えているはずです。時には、感情がコントロールできない事もあるでしょうが、子育ての最終章として私達親が、先生方と共にサポートをして、一日一日を大切に最高の笑顔で卒業式に臨めるよう願っております。

二学年委員長　中村　純也

昨年に引き続き学年委員長を務めさせて頂くことになりました中村です。どうぞ宜しくお願い致します。

今年の夏も例年通り猛暑日も多く熱中症に注意しながらの生活となりましたが、本校の生徒達が無事に夏を過ごせたこと嬉しく感じています。

日本人は、夏と言えば祭り、祭りと言えば日本手拭が必須アイテムではないでしょうか？昔はどこの家庭でも必ずあった手拭いですが、最近はなかなかお持ちで無いご家庭も増えているようです。注染という伝統技法で日本手拭いを染める事が私の仕事ですので、皆様に少しでも手拭いの良さを知って頂くために少々解説をさせて頂きたいと思います。

手拭いの歴史については検索すれば沢山出てくると思いますが、ざっくりと説明させて頂きます。大昔は、生地が綿ではないとか手を拭く物では無く身分等を表す物であったり、装飾品や神事に使う物であったりなど色々な使い方をしたようですが、現在の手拭いの元になった部分だと江戸時代に綿花の国産化に成功した事が大きいと言えます。沢山作れたから庶民も使ってもいいよ！と言う事と銭湯の普及が大きな理由ではないかと推測されます。当時は注染ではなく長板染めでした。今回は文字数の関係で技法までたどり着きませんでしたので、技法につきましてはまたの機会に説明させて頂きます。

一学年委員長　松澤　龍治

今年度一学年委員長を務めさせて頂く事になりました松澤と申します。こんな大役を仰せつかり、今まで経験の無い重責を感じておりますが、先生方・会員の皆様のご協力を受けながら一生懸命頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

父母の会、学年学級懇談会へご出席頂き、ありがとうございました。学年テーマの「充実した高校生活を送るために」という内容で話し合い、有意義な時間を過ごされたのではないでしょうか。平成二十六年度が始まって早いもので半年が過ぎ、生徒たちは新しい友達もでき、充実した日々を送っているのではないでしょうか。充実した日々を送るには規則正しい生活習慣が一番です。勉強も部活も大切ですが、ご家庭での食事、睡眠時間の確保に注意し、高校生活三年間、後悔のないよう過ごして頂きたいと思います。親としても子どもとのコミュニケーションを大事にサポートしていきたいと思います。

生徒の皆さん、自分の目標に向かって、日々努力し、周りの人に感謝を忘れず、心身共に健康に気を配り、最後まで諦める事なく乗り切ってほしいと思います。

出席者感想

普通科特進三年　中島　由美

平成二十六年六月二十二日、例年通り「第三学年父母の会学級懇談会」が行われました。出席率も大変良く、学校側の誠意と保護者の皆様が我が子の進路について真剣に考えている様子が感じられました。

ライセンスアカデミーの宇佐美先生の講演「高校生の進路と家庭の支援」は、本当に参考になりました。我が家は夫婦で参加したのですが、実際社会人として家族を養っている夫と机の上の資料だけで進路を考えている子ども達では、やはり若干のずれが生じておりました。ですので進路・就職の選択そして、時代の流れと共に大きく変わっている現状をお話頂いて、夫婦で納得する事ができました。何より親子で同じ情報を共有する大切さを実感致しました。その後、親子での進路の話し合いがスムーズになったのを実感いたしました。

入試や学部の事など親も説明してやれない事がたくさんあります。担任の先生は「何でもご相談ください。」とおっしゃって下さってます。子ども達が信頼を持って相談できるすばらしい大人に出会えている事に安心し、とても感謝致しております。

普通科進学三年　星野　友紀子

三学年の懇談会に出席致しました。これから進学等を考えている私たちにアドバイスを頂きました。家庭ではコミュニケーションを取り学校と連携を計り、進路選択に役立てる事など具体的なお話を聞かせて頂きました。

学級懇談会では各班に分かれて、親同士の意見交換が出来、沢山の情報が得られました。先生よりクラスの様子、進路状況、日程などの説明をして頂きました。三年間、学年懇談会と学級懇談会に出席しましたが諸先生方が、生徒一人一人をとても大切にして頂いていると実感し、とても感謝しております。そして友人にも恵まれ楽しい学校生活を送り、進路達成に向けて前進してまいりたいと思っております。

普通科国際文化コース三年　小島　美智子

六月二十二日第三学年の懇談会が「進路達成に向けて」という統一テーマで行なわれました。第一部では、ライセンスアカデミーの宇佐美先生による講演。一つ一つの言葉がなるほどと納得のいく話に魅了され、あっという間の一時間でした。第二部では、担任の千波先生から入試について詳しく教えて頂いた後、留学先から帰国した三名の保護者の方から向こうでの様子や変化などについてのお話を伺いました。十ケ月すごく頑張って成長した様子に立派だなと感心させられました。その間、日本でも少ない人数のなか、いろいろな行事等をこなしてきた子ども達も頑張ったなと思います。こうして過ごした時間はそれぞれが有意義だったと思います。そんな皆なので進路達成に向けこれからも精進していけると思います。そして卒業の日を素敵な笑顔で迎えられることを願っています。

総合ビジネス科三年　小代　智美

六月二十二日、三学年学級懇談会が行われました。

第一部の全体会は、ライセンスアカデミーの宇佐美先生の進路講演会で「高校生の進路と家庭の支援」という内容で、詳しく説明・ご指導して頂きました。

いよいよ最終学年となり、進路への意識の在り方や家庭でのコミュニケーションの取り方を改めて考える貴重な時間となりました。

第二部の学級懇談会では、田村先生からクラスの様子や進路状況・日程などの説明をして頂きました。特に日程は、八月～十一月の先生特性？カレンダーによる分かりやすい説明で、先生の熱心さが伝わり、感謝と共に進路達成に向け、保護者としても一層努力しなければ・・・と実感しました。

残りの高校生活を充実させ、進路達成を経て、笑顔で卒業式を迎えられるよう見守っていきたいと思います。

普通科特選二年　坂井洋子

高校二年生。気力体力共に充実し、輝きを増す時代。しかし同時に中だるみし、ハメを外しやすい時期でもあります。子ども達には学校生活を謳歌すると共に、自分自身をしっかりと見つめ、大人への準備を着実に進めてもらいたいと思います。そういった意味で、保護者にとっても今回の懇談会は重要且つ、充実したものになったと思えました。

前半、十会場に分かれての進路別懇談会は各大学や学校の講師方を迎え、それぞれの現在状況の説明や各学校の特色、指導方法など分かりやすくお話して頂き、今後の進路相談に大変参考になりました。

また後半、各クラス毎で行われた学級懇談会では、先生による現状説明などと共に「学習時間の少なさ」についても話し合われ、出された意見の数々からは大変感銘を受けるものもあり、更に充実した時間を過ごせました。この様な機会を与えて頂き、学校には感謝したいと思っています。

普通科進学二年　井草みど里

高校二年となり、我が子は学校生活にも慣れ、勉強・部活動にと充実した毎日を送っています。たった三年の高校生活。あっという間に中盤でそろそろ進路について真剣に考えなくてはいけない時期に、この学年学級懇談会が開催され、有意義な時間を過ごさせて頂いた事に心より感謝しております。

「進路実現に向けて」この学年統一テーマが示すように、それぞれの子ども達が目指す分野別に、講師の先生からきめ細かに分かり易く説明をして頂きました。親も子も初めての進路選択。子どもに相談された時に良いアドバイスが出来るよう、自分の経験も含めたくさんの情報を持っていたいと思います。親の意見を押し付けるのではなく、子どもが興味を持ちやってみたいと思った事に本気で取り組めるよう一番近くで支えて行こうと強く感じました。

二部の学級懇談会では担任の柄澤先生からクラスの明るい様子を聞いたり、オープンキャンパスに積極的に参加した方が良いなど非常に参考になるお話をして頂きました。ご兄弟のいる保護者の方からは貴重な経験談を話して頂き、それについての質疑応答で、二部の時間が足りない程の盛り上がりでした。

これからの高校生活をより一層充実させ悔いなく希望の進路の扉を開けるよう、話し合い、見守って行こうと思いますので、先生方の変わらぬ熱いご指導をよろしくお願い致します。

普通科国際文化コース二年　戸塚育美

高校生活二年目に入り、日々充実した学校生活を送っているようですが、一部では中だるみの学年とも言われております。その中で、七月六日身の引き締る様な学年学級懇談会が行われました。

学年懇談会では学年統一テーマ「進路実現に向けて」に基づき、進路別に講師の先生方をお招きし進路実現に向けての取り組み方や大学生活の様子などとても興味深いお話を頂きました。

学級懇談会では担任の井出先生より、クラスの現況や過去二年間の卒業生の進路結果について説明を頂きました。クラス替えのない我が国文は馴染みのあるご父母祖父母の皆様ととても楽しく有意義な時間を共有する事ができました。

このような機会と先生方の親身なご指導に感謝し、引き続き子どもと向き合い、素敵な未来へ導いていきたいと思っております。

普通科特進一年　石井千佳

入学後初の、一学年の学年・学級懇談会が六月二十九日に行われました。

第一部の学年懇談会では、進路指導や海外研修についてのお話がありました。進路については、大学・専門学校に安易に進学することにより、中退者が多いということでした。子ども達には、しっかりとした目標をもって、高校生活を送ってほしいと実感しました。

第二部の学級懇談会では、最初に担任の先生から、クラスの現状報告、二年次の文理選択等についてお話がありました。その後、「充実した高校生活を送るため」というテーマで、六人程度の班に分かれて意見交換が行われました。各々の家庭における子ども達の様子を聞くことができ、共感できた点も多かったように思いました。

高校においては、保護者が学校へ足を運ぶ機会が減る中、多くの保護者が集って意見交換ができたことは、大変有意義だったと思います。ありがとうございました。

普通科進学一年　今川幸子

満開の桜で迎えた入学式から早数ヶ月。日々勉強と部活にと充実した生活を送っています。

一学年の学年・学級懇談会は、六月二十九日に行われました。

第一部では生活、進路、海外研修等の話を聞きました。二年次からのコース選択については、今から子どもと共に適正な進路を見据えてコミュニケーションを大切にしたいと思いました。

第二部の学級懇談会では、田村先生よりクラスの現況や進路説明の話を聞きました。家庭で携帯を操作している時間を自主学習の時間に向けてほしいと話されました。グループ内の話し合いでもスマートフォンの使用方法で悩んでいる家庭が多く、もう一度親の責任・管理について考え、子どもにルールを与え、マナーを守ることを伝えたいと思いました。

出席率一〇〇％の中で保護者の方と熱心に話し合いができました。

総合ビジネス科一年　中島佳子

一学年の学年、学級懇談会が六月二十九日に行われました。

第一部の全体懇談会から多くの保護者の参加があり、高校生活、進路や海外研修などの説明がありました。入学してから三ヶ月しかたっていませんが、三年後の進路へのスタートは切っている事に、早く子どもに気付いて欲しいです。

第二部のクラス懇談会では、先生に用意して頂いた資料をもとに進みました。クラスの日々の様子や勉強、夏休みについての話があった後、二年次からのコースについての説明がありました。コースについて、より勉強内容の違いがわかり、話が聞けて良かったと思います。その後、グループ懇談にうつり、子どもの携帯の使用について、意見交換をしました。常に携帯を手にしている子や、全然触らない子もいたりと様々でした。家でルールを決めてはいても、守れない子も多く、困るとの意見がありました。あれば便利、無いと不便。駄目駄目言うばかりだけでなく、ルールとマナーをきちんと覚えて貰いたいです。貴重な意見交換が出来、有難うございました。今後も、ご指導宜しくお願いします。

父母の会本部役員
（部活動後援会本部役員）

会長	吉原　秀忠	（F3-9）	
副会長	高見澤佳子	（F3-5）	
〃	中村　純也	（F2-8）	
〃	松澤　龍治	（F1-10）	
書記	飯塚　公明	（F3-7）	
〃	佐藤　英司	（S2-2）	
〃	登坂　駿	（学校職員）	
会計	宮下佐登志	（F3-10）	
〃	山木　恵子	（F2-8）	
〃	岩井　則和	（学校職員）	
理事	井坂　弘子	（F3-1）	
〃	青木　光代	（F3-2）	
〃	中島　由美	（F3-3）	
〃	大塚　百代	（F3-4）	
〃	冨所　広美	（F3-6）	
〃	星野友紀子	（F3-7）	
〃	石川　悦子	（F3-8）	
〃	阿久津道子	（F3-9）	
〃	新井　貴子	（F3-10）	
〃	小島美智子	（F3-11）	
理事	冨所　洋一	（S3-2）	
〃	坂井　洋子	（F2-1）	
〃	磯部　裕子	（F2-2）	
〃	榎本　恭子	（F2-3）	
〃	生方　和美	（F2-4）	
〃	井草みど里	（F2-6）	
〃	今井　紀子	（F2-7）	
〃	米谷　悦子	（F2-9）	
〃	長峰　恵子	（F2-10）	
〃	戸塚　育美	（F2-11）	
〃	大山かおる	（S2-1）	
〃	井艸　広子	（S2-3）	
監事	小代　智美	（S3-1）	
〃	猿谷　正広	（F2-7）	
〃	平塚貴恵子	（F2-5）	
〃	金井　悦代	（F2-2）	
〃	横尾　麻子	（F1-1）	
〃	茂木　幸恵	（F1-3）	
〃	品田　浩二	（F1-6）	
〃	今川　幸子	（F1-8）	
〃	笠原　美穂	（F1-11）	

父母の会総会報告

平成二十六年度高崎商科大学附属高等学校「父母の会・部活動後援会総会」が、五月十七日（土）午後二時から本校講堂にて開催されました。開会にあたり今井会長・学校長より挨拶、学校の近況報告がありました。続いて議事に入り、事務局より平成二十五年度事業報告、決算報告並びに、監事より監査報告があり、審議の結果承認されました。

次に本部役員の改選が行われ、平成二十六年度の新会長には吉原秀忠氏が選出されました。同時に副会長三名以下総勢四十一名の役員が選出、承認され、新役員を代表して吉原会長より挨拶がありました。続いて平成二十六年度事業計画案、予算案が提出され審議の結果、原案通り承認されました。

最後に父母の会、部活動後援会にご尽力頂きました今井敏博前会長、退任された本部役員の皆様に、学校長より感謝状と記念品が贈られ、退任者の挨拶の後、会員の皆様のご協力をもちまして無事に総会を終了することが出来ました。ありがとうございました。新年度の本部役員は、別記の通りです。宜しくお願い申し上げます。

（書記　飯塚公明）

父母の会　平成25年度決算報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで　（単位：円）

収入の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
会費	16,212,000	16,430,000	△218,000	@1,000×16,430人(月平均　約1,369人)
入会金	2,580,000	2,580,000	0	@5,000×516人（新入生516人）
受取利息	5,000	3,490	1,510	定期預金・普通預金
衛生費収入	1,376,000	1,376,000	0	@1,000×1,376人
前年度繰越金	3,457,060	3,457,060	0	普通預金　2,165,115円　現金　1,291,945円
合計	23,630,060	23,846,550	△216,490	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
備品費	1,000,000	945,787	54,213	第7校舎カーテン取付
会議費	1,300,000	1,093,847	206,153	役員会・学年・学級懇談会経費
慶弔費	300,000	247,825	52,175	香典・花輪・餞別
補導費	100,000	38,580	61,420	情報交換会・校外の生活指導費等
環境整美費	1,500,000	1,204,802	295,198	校舎校庭の整備・掃除用品・ゴミ処理代
保健衛生費	1,600,000	1,294,547	305,453	汚物処理・保健室薬品代等
旅費交通費	250,000	31,640	218,360	役員研修交通費等
部活動賛助費	3,000,000	3,000,000	0	部活動後援会の補助
通信費	30,000	15,874	14,126	会員連絡用切手・封筒印刷
消耗品費	30,000	2,404	27,596	コピー用紙等
進路対策費	1,700,000	1,323,140	376,860	進路資料・2014年度版大学入試シリーズ・講演会
生徒会事業協力費	1,800,000	591,835	1,208,165	芸術鑑賞(狂言)・予餞会・生徒会協力金
卒業生記念品費	270,000	234,000	36,000	卒業祝紅白餅
教育研修費	750,000	313,280	436,720	教職員研修補助
印刷費	700,000	606,900	93,100	商大附高だより・学年学級懇談会結果報告書
車輌運営費	1,800,000	1,613,407	186,593	車輌燃料代・車輌リース代
諸会費	2,500,000	2,273,385	226,615	PTA連合会費・スポーツ振興センター負担金・他
雑費	150,000	108,850	41,150	大会協賛パンフレット広告料等
車輌償却引当預金	1,000,000	1,000,000	0	特別繰越金
創立110周年記念事業費	2,000,000	2,000,000	0	特別繰越金
育英基金協力金	1,000,000	1,000,000	0	学園育英基金
[予備費]	100,000	0	100,000	
次年度繰越金	750,060	4,906,447	△4,156,387	普通預金　4,010,525円　現金　895,922円
合計	23,630,060	23,846,550	△216,490	

※特別繰越金

科目		金額	科目		金額
車輌償却引当預金	前期末積立累計額	2,600,000	創立110周年記念事業積立金	前期積立累計額	11,000,000
	当期積立額	1,000,000		当期積立額	2,000,000
合計（当期末積立累計額）		3,600,000	合計（当期末積立累計額）		13,000,000

上記の通り決算報告致します。

高崎商科大学附属高等学校　父母の会　会長
〃　父母の会　会計
〃　事務局

部活動後援会　平成25年度決算報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

（単位：円）

収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
会費	24,318,000	24,645,000	△327,000	@1,500×16,430人（月平均　約1,369人）
入会金	2,580,000	2,580,000	0	@5,000×516名（新入生516人）
賛助費	3,300,000	3,300,000	0	父母の会 300万円　同窓会 30万円
寄附金収入	800,000	764,395	35,605	自動販売機売上手数料
受取利息	5,000	2,001	2,999	定期預金・普通預金
前年度繰越預り金	4,796,141	4,797,097	△956	春高バレー預り預金・受取利息
前年度繰越金	4,728,491	4,728,491	0	普通預金 3,023,650円　現金 1,704,841円
合計	40,527,632	40,816,984	△289,352	
支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
大会費	18,000,000	16,311,178	1,688,822	全国（インターハイ北部九州、選抜 静岡）関東、県大会等
報償費	4,500,000	4,086,460	413,540	講師、コーチ等の謝礼
合宿費	1,300,000	1,336,750	△36,750	強化合宿・校内合宿補助
備品費	1,500,000	1,269,419	230,581	男子サッカー部ユニホーム・野球部ヘルメット等・他
強化費	3,000,000	2,049,592	950,408	強化大会等経費・講習会・施設利用料
渉外費	400,000	158,579	241,421	大会パンフレット協賛金、他
車輌運営費	1,700,000	1,511,653	188,347	車輌燃料代、マイクロリース料
車輌償却引当預金	2,000,000	2,000,000	0	特別繰越金
部活動振興基金	3,000,000	3,000,000	0	特別繰越金
雑費	30,000	0	30,000	
[予備費]	100,000	0	100,000	
預り金次年度繰越金	4,796,141	4,797,097	△956	春高バレー預り預金 4,797,097円
次年度繰越金	201,491	4,296,256	△4,094,765	普通預金 4,040,117円　現金 256,139円
合計	40,527,632	40,816,984	△289,352	

※合宿費の予算超過額については、他科目予算残高で科目間流用いたしました。
※寄附金収入について　校内に設置してあります自動販売機は購買部で管理していますが、売上手数料につきましては部活動後援会に寄附をして頂いております。

※特別繰越金

科目		金額	科目		金額
部活動振興基金	前期末積立累計額	6,500,000	車輌償却引当預金	前期末積立累計額	0
	当期積立額	3,000,000		当期積立額	2,000,000
合計（当期末積立累計額）		9,500,000	合計（当期末積立累計額）		2,000,000

上記の通り決算報告致します。

高崎商科大学附属高等学校　部活動後援会　会長
〃　部活動後援会　会計
〃　事務局

一年生父母が語る

我が子に望む高校生活

普通科特選　横尾和茂

「何事もなく三年間を心身ともに無事に過ごしてもらえたら。」と、月並みな一般的な高校生活を望んでしまいます。

我が子にだけは、火の粉が掛からぬよう親が振り払ってあげたい、この世に存在するすべての「苦」から守ってあげたい、安泰が何よりです。

しかし、一般的には、親は子より先に人生の最期を迎えます。いつまでも親が子を守り続けることはできません。挫折・失敗・失望や失恋も含めて、自分で乗り越えられる力が必要となります。保護者と先生でサポートしながら、自分自身で解決していくことも覚えてもらわなければなりません。

高校生活三年間でいくつかのハードルを飛び越えて、コモンセンスを磨き、いろいろなバランスを取ることのできる人間になって、卒

業式を迎えるころには、「あれ？少し強くなったかな？」と思える我が子を感じたいと思います。

でも、快活に今日の学校での出来事を話す顔や笑顔は何度でも見たいですが、落ち込んでいる顔や泣き顔は、やはり見たくはないのですけれど・・・。

普通科特進　茂木幸恵

最近、息子は会話の中で、まだ高校一年生だから…という言い回しをよく使います。言葉の裏には、高校生活はあと二年あるからという余裕が見え隠れするのを母親として少し危惧しています。

人生八十年といわれる長寿社会になり人生の残り時間を逆算して計画的に有効活用できる人は少ないと思います。かく言う私も、高校生活がどれだけ重要で、本当に短い三年間だったかということを知るのは、残念ながら子を持つ親になってからでした。

マーク・トウェイン曰く「やったことは、例え失敗しても、二十年後には笑い話にできる。しかし、やらなかったことは、二十年後には、後悔するだけだ」

三年間という時間の長さは万人に平等ですが、その過ごし方で感じ方は違います。嫌いなことをする時間は長く感じるし、楽しい時間はあっという間に過ぎるでしょう。あえて嫌いなことや困難なことにも真摯に挑戦し、将来、高校生活を振り返った時に達成感があり充実した三年間だったと思えるような高校生活を息子に送ってほしいと切に願っています。

普通科進学　根本さおり

四月に高校に入学し、既に四ヶ月が過ぎようとしています。高校生活の三年間は、あっという間に過ぎてしまいます。しかし、その三年間は、これからの人生において、将来を決定するための重要な三年間だと思います。自分が将来どんな職業に就きたいのか、そのためにはどんな目標をもち、今、何をすべきなのかをしっかり考えなければならないと思います。

子どもが中学生の時、「がんばってもどうせできない」という言葉をよく聞きました。挑戦する前からあきらめてしまったり、頑張っても失敗したら嫌だ。という気持ちが先行してしまったりするからなのでしょうか。

できる力・能力があっても消極的な「気持ち」でその力を発揮できない。ということは特に中高生には多いと思います。

高校生活三年間で、自分の将来を見つけるために、いろいろな事に挑戦したり、自分でやろうと決めた事にしっかり向き合い、がむしゃらに努力したりする気持ちを大切にしてほしいと思っています。

普通科国際文化　笠原美穂

小学校、中学校と義務教育も終わり本人の希望する高校へ入学する事ができました。まずその事に感謝する気持ちを持ってもらいたい。すべての人が思い通りになるわけではないのです。

これから始まる高校生活、その先の人生を過ごしていく中でもきっとそうだと思います。楽しい事ばかりでなく、辛い事、悲しい事、たくさんの事があると思います。悩み、考え、それでもどうしようもない事もあるでしょう。そんな時に力になってくれるのが、親や家族、先生方やお世話になっている大人そして、友人です。もちろん親はいつでも心配し、見守っていますよ。けれど、友人は違います。一緒に過ごして行く中で共に笑い、時にはぶつかり、泣いたりして本当の友情が生まれてくるのではないでしょうか。この三年間でそんな素晴らしい仲間ができたら、きっと楽しい高校生活になると思います。

現代社会ではインターネットやSNSといった大変便利な世の中になっています。顔を見て会話をしなくても、いつでもどこでもコミュニケーションがとれます。そんな世の中だからこそ、それだけでなく自分の口で言葉でコミュニケーションをとり、本当の仲間との絆を深めてほしいと思います。その人達はきっと君にとって、かけがえのない存在になるでしょう。時には、親以上に大切だと思う事もあるかもしれません。親としては、さみしい気持ちもありますがけれど、本当に解かり合える友がいるというのは、幸せな事なのです。そして、そんな仲間と楽しく過ごし、卒業できたらいいと思います。きっとあっという間の三年間だと思います。しっかりと夢を持ち、その為に努力して立派な大人いや、素敵な大人になれるよう頑張ってください。これからの君

の人生を楽しみに見守っています。

総合ビジネス科　小林光子

どんな風に高校生活を送ってほしいか？

それはみんなと楽しく体を動かし大きな声を出し戯れている高校生活。勉強は自ら取り組み、趣味でも関心を示し胸をときめかせ、こんなことをしてみたい、あんなことをしてみたと話す高校生活を送ってほしいと思う。

まるで青春ドラマだ。

体が小さく弱かった彼に守りの姿勢ばかりを知らず知らずのうちに刷り込んで積極的になる要素、チャンスを減らしていた過去。中学時の登校は八時だったので寸前まで朝寝坊をしていた彼が六時起床。自転車と電車の乗りつぎ通学は一時間かけ登校しています。四月の入学時は、バスの待合時間が合わず駅から二時間かけて徒歩で帰宅。バスを自転車に変えたころは、電車では寝過ごし通過や乗り違い。体力が持たないし、筋肉痛だし、寝坊しないように調整するのが難しいと騒いでいた。「迎えに行ってあげようかな」と声を出しそうになりますが、「自分のことでしょ！」と言い離し平然な顔をしてみる。

時間の流れと共に逞しくなる子どもに驚かされます。カッコイイ彼ではありませんが、一つ一つ順応している彼がそこにいます。これを機に経験値を積み上げ、自信につながる生活を送ってほしいと思います。自信につながらなくてもいいです。たくさんの事柄が彼を作るように高校生活を送ってもらいたいです。

学園ひろば

特別進学選抜・特別進学コース
主任　大澤香代子

経済のグローバル化に伴い、「グローバル人材の育成」が叫ばれる中、大学教育においても「国際化」への取り組みが活発になっています。そのひとつが「国際バカロレア」資格を取得した生徒を受け入れるための入試改革で、東京大学や筑波大学などが、来年度からの国際バカロレア入試の実施を表明しています。この資格はもともとインターナショナル・スクールに通う生徒のための資格ですが、「多文化に対する理解と尊敬を通じて、よりよく、より平和な世界の実現のために貢献する、探究心・知識・そして思いやりのある若者の育成」という理念が、「グローバル人材」の理想像と合致することから、文科省がその普及に力を入れ始めたものです。

これに先立ち、入試制度ではＡＯ入試が導入されて久しく、広く定着しています。これは、学力以外の知識・意欲・コミュニケーション力などを総合的に評価するもので、指定されたテーマについてのプレゼンテーションや小論文、課外活動実績等が重視されます。

特選・特進コースでも、ＡＯ入試を受験する生徒が年々増加しています。その際に苦労するのが、志望理由が漠然としていて将来のビジョンが明確でないことや、自己アピールできるような活動をしていないことです。そこで、特選・特進コースでは、二年次の「総合的な学習の時間」に論文作成の講座を設けたり、部活動や校外での文化的・奉仕的活動に積極的に参加することを呼びかけています。今年の夏は、三十名を超える生徒が様々な施設でボランティア活動に参加しました。授業では学ぶことのできない貴重な体験をしたことと思います。今後も多くの生徒が積極的に行動し、人間的な広がりや挑戦する気持ちを養ってくれることを期待しています。

一学年進学コース主任
水上　浩

四月八日の入学式から一学期の始業式まであっという間に、七十八日が過ぎました。高校生になった子ども達には何か変化があったでしょうか。おそらく中学時代とは全く違う時間を過ごしたと思います。勉強も頑張ったと思いますが、運動も頑張りました。今年の一年進学コースは部活入部率が高く、調べてみると五組から十組までで、約九十三％が運動部、文化

部に入っています。特に男子の入部率が高く、良い意味で進学コースを引っ張ってくれています。一方女子では、フェンシングの関東大会で第二位に入賞している生徒もいます。このまま辞めずにいってほしいと願います。生徒達はそれぞれ目標に向かって頑張っていると思います。本校では、自主、自立という事を大事に考えていますが、最近の若者の傾向として何かを与えてあげないと何も出来ない、しないという傾向があります。また、最近は、コミュニケーションがうまく取れない生徒も多くなった、とも言われています。特にコミュニケーション能力の育成は、将来の就職活動においては大きな課題です。今のうちから自然に誰とでも話せるようになるよう、練習してゆくことが大切です。今、現代社会では、人間関係が希薄になり、ゲームやネット（ライン）の世界に没頭してしまう若者達が多くなっています。そういった中で、本校生徒は、そのような世界には必要以上に染まらず、勉強に部活動に精を出してもらい、二学期からは是非、自主性を伸ばし、自ら考え進んで取り組めるような生徒に育っていってほしいと願っています。

二学年進学コース主任
菊池弘幸

二年生という中堅学年になり、高校生活にも慣れてきたかと思っていたら、もう折り返し地点に到達しようとしています。高校生活の前半戦はどうだったのでしょうか。自分で思い描いたような展開がされていたでしょうか。それとも、思いもよらぬハプニングに見舞われ、苦戦を強いられたでしょうか。いずれにしても、もうすぐ後半戦のホイッスルが吹かれます。そして、どう戦うかは自分自身で決めることです。終わった後で、あれこれと言い訳は言いたくないですね。言い訳を言ったところで結果が変わるわけではありませんからね。

ところで、今年の夏も県内外で進学コースの生徒達が汗びっしょりになりながら活躍しました。総合文化祭は茨城県で行われ、本校からはバトン部、放送部が参加してきました。インターハイは、「煌めく青春　南関東総体２０１４」と銘打ちまして、東京、千葉、神奈川、山梨の四都県で熱戦が繰り広げられました。そして本校からは、常連でもある、アーチェリー部、空手道部が千葉県へ、フェンシング部が神奈川県へと乗り込んで行きました。みごと入賞した選手、残念ながら入賞は逃した選手、内容は様々でしたが、皆それぞれの達成感を持ち帰ったようです。部活と勉強の両立という進学コースの目標を正に体現したものであると思います。そしてここからは、夏の部活での頑張りをバネに学習にさらに力を入れていく季節となります。部活同様努力は必ず報われる日が来るものです。自分の進路をしっかり見据えて努力を重ねていくことで、自分の将来が見えてきます。実り多いものにするためにも早い動き出しを期待します。

また、十月十八日、十九日には商大附高祭も行われますので、そこでの生徒の活躍にも期待したいと思います。

三年進学コース主任
高橋久雄

「努力は何の為にするのでしょう？」皆さんはどう思いますか？努力しても報われないという悔しい思いをかみしめることもあるかもしれません。努力することに疑問を感じる瞬間もあるかもしれません。しかし、努力することで、学べるものが必ずあるはずです。学ぶことで、私たちは成長していくのです。たとえ今、思うような結果が出なくても努力し学んだことは、決して無駄になることはありません。私たちの人生の中で必ず役に立つはずです。

あっという間に九月を迎えました。いよいよ進路達成に向け大切な時期になりました。一学期は一、二年時に比べ欠席、遅刻が激減し、皆さんの意識も進路達成に向かっていると感じました。一学期は広い視野から学力も含め、志望校決定をしていく時期でした。夏季休業中には夏期講座の参加、毎日六時間以上の学習をお願いしましたが、実行できたでしょうか。受験科目の学習、面接、小論文対策等やるべきことは尽きなかったと思います。就職希望者にとっては、求人状況は昨年同様に厳しい状況となっています。

二学期には多くの学校で推薦入試が実施されますが、推薦入試に固執せず、自分の実力を試す意味

でもセンター試験、一般受験にもチャレンジして欲しいと思います。自分の将来についてしっかりした目標を持ち、進路達成を自らの手で決めてください。「今が大事」なのです。時間は止まってくれません。勉強しても、しなくても同じように時は経過して行きます。時はすべての人に唯一平等に与えられています。残りの高校生活が有意義な時となることを望みます。

「強い人が勝つとは限らない。また、素晴らしい人が勝つとも限らない。私はできる！そう考える人が結局は勝つ。」・・・アメリカの教育者ナポレオン・ヒルの言葉より。

保護者の皆様へ。生徒たちは頑張っています。温かく見守りましょう。時に弱気になったり、不安になるかと思いますが、そのときは聞いてあげてください。聞くだけで生徒たちは安心します。結論など出なくても構いません。大丈夫だろうかと親も不安になりますが、親が心配していると子どもにもわかります。子どもたちを信じて、応援しましょう。進路等について分からないことがある場合は担任に相談してください。

国際文化コース主任　鈴木啓明

現在の日本の若者は、先の見えない経済環境や産業の空洞化など、閉塞感漂う社会状況の中に置かれており、海外に対して『内向き志向』などと言われている。一方グローバル化の波は一段と大きく押し寄せており、ヒト・モノ・カネが国境を越えて駆け巡っている。そんな中で、国際社会をリードする人材、たくましく生き抜く人材の育成が求められている。

こういう状況で高校生の海外留学に目を向けてみる。高校生の海外留学は、豊かな感性と強い吸収力を持つ十代で、他国の文化・生活の理解、人々との交流を通じ、国内では得難い様々な体験が出来ると同時に、急速に変貌する国際社会に接することもできる。

ところが、高校生の留学への意識調査では、「可能であれば留学したい」が四割、「希望しない」が六割と高い。海外に出ることだけが良いとは言えないが気になる数字ではある。本校でも、先日文科省からのアンケートがあり三クラスで実施（当初は国文コース一年～三年の三クラスを考えたが、三年生は数名が留学を経験済みなので特選コース一クラス・国文二クラスで実施）した。結果を見ると、特選コースで「したい」は十名、「したくない」は十九名。国文一年の「したい」は十九名、「したくない」が二名。国文二年の「したい」は十七名、「したくない」が六名だった。特選コースの結果はほぼ全国平均と同じであったが、国文コースでは約八十二％の生徒が「したい」と答えている。文科省の統計によれば、実際高校生の留学生数も全国で約三千人と、多かったころの七割程度に減少しているようだ。そんな中で、本校国文コースでは、ここ数年三、四名で推移している。この数字を見る限り、大変頼もしい気持ちになる。六月にはカナダから来ていた留学生ジャンヌさんが帰国した。そして今度はタイからシャヤニーさんがやって来た。ホストファミリーには本当に感謝しつつ、生徒にはただ楽しい時を過ごすだけではなく、実りある交流も意識してほしいものだ。

最近は本校でも卒業生の中に、海外の大学へ進学する生徒も出てきた。そんな生徒を見ながら頼もしく感じ、日本の将来を託したくなるのは大げさだろうか。

総合ビジネス科主任　善如寺孝益

本科は大学科「商業科」に属していますが古来より科目の中心は「簿記」です。ところがその「簿記」を苦手に思っている生徒が少なくありません。ここでなぜ必要とされているのか少し話をしましょう。中でも社会人が対象の日商簿記試験などは昨年だけでも、一級～三級までで、六十万人以上もの方が受験しています。簿記の次に多い宅建の二倍以上でした。現在世の中では把握しきれないほど様々な資格が沢山ありますが、簿記の資格取得の需要の大きさを物語っています。では、なぜ多くの人が日商簿記の資格取得を目指すのでしょう。それはなにより「企業のニーズが高い」ということで、簿記の資格を取得することは社会人のマナーとも言われています。裏返すと簿記に関する最低限の知識が社会で働くために必須なスキルなのです。考えてみて下さい、会計や経理の業務がない会社や事業

所は存在しません。営業でもそうです。お金の流れについてある程度把握していることは、働いていく上で大きなメリットになります。また、会社での打合せや会議等では、簿記に関する知識をある程度持っていることを前提にして、商談や会議が進むことは多々あります。

したがって、直接的に経理や会計に携わる人だけでなく、これから社会に出る人、社会人全員にとってあらかじめ簿記の知識を持っているということは、大きなメリットになるのです。

また、「大学入試に有利」という側面もあります。すべての大学ではありませんが、簿記二級程度取得していれば、大学の推薦入試で有利になるケースが多々あります。これは、簿記のスキルを持っていること自体も評価されますが、「この生徒はちゃんと勉強できる子なんだな」と努力する力を評価されるケースが多いのです。

さて、二学期の過ごし方はいかがでしょうか。今学期は資格取得など一年間を左右する大切な学期です。前向きに頑張りましょう。応援しています

全学年対象「学校評価アンケート」分析結果について（保護者・生徒共に1311名）

平成25年度末におけるアンケート結果が出ましたので、ご報告させていただきます。傾向としては、本校の各科・コースの教育内容を理解し、学習や課外活動に積極的に参加し、本校の教育活動に満足している生徒が約８割です。総合学習、課題研究にも多くの生徒が積極的に取り組んでいます。生活面、健康面でも概ね良好の印象を受けます。しかし、家庭学習時間が１時間以上の生徒は35％であり、改善が必要です。夢を実現するための具体的な取り組みを決め、一つ一つそれらをクリアして、さらに次のステップへ進んでもらいたいものです。

評価内容
4 … よく当てはまる
3 … 当てはまる
2 … あまり当てはまらない
1 … 全く当てはまらない
0 … 分からない

達成度
A … 十分達成できた
B … 達成できた
C … もう少しで達成できた
D … 達成できなかった

●生徒全体

No.	質　問	平均	4	3	2	1	0	達成度
1	自分は本校の各科・コースの教育内容を理解し、学習や課外活動に積極的に参加し、本校の教育活動に満足している。	3.0	20%	58%	15%	2%	5%	A
2	自分は「総合学習」「課題研究」に積極的に取り組んでいる。	3.0	22%	54%	18%	3%	4%	A
3	自分は学習に対して満足感、達成感を持っている。	2.6	10%	44%	36%	5%	5%	C
4	自分は意欲的に学習に取り組んでいる。	2.6	11%	46%	34%	7%	3%	C
5	自分は家庭学習時間が、毎日１時間以上である。	2.2	11%	24%	37%	25%	4%	C
6	自分は高校生らしい服装、頭髪、言葉遣いをしている。	3.3	38%	51%	7%	1%	3%	A
7	自分は登下校時や授業の開始、終了時に積極的に挨拶をしている。	3.0	30%	46%	20%	3%	2%	A
8	自分は、毎朝朝食をとり、生活のリズムが一定している。	3.3	47%	36%	13%	3%	2%	A
9	自分は進路指導の行事に積極的に参加している。	2.7	16%	43%	30%	5%	7%	C
10	保護者は、生徒の将来の進路志望について理解している。	3.1	30%	44%	15%	2%	9%	A
11	自分は進路の適性をよく理解している。	2.9	19%	44%	21%	4%	12%	B

●保護者全体

No.	質　問	平均	4	3	2	1	0	達成度
12	子どもは本校の各科・コースの教育内容を理解し、学習や課外活動に積極的に参加し、本校の教育活動に満足している。	3.1	22%	59%	13%	2%	4%	A
13	子どもは「総合学習」「課題研究」に積極的に取り組んでいる。	3.0	21%	53%	18%	2%	6%	A
14	子どもは学習に対して満足感、達成感を持っている。	2.7	13%	47%	31%	4%	6%	C
15	子どもは意欲的に学習に取り組んでいる。	2.6	13%	43%	34%	8%	3%	C
16	子どもは家庭学習時間が、毎日１時間以上である。	2.4	12%	29%	39%	17%	4%	C
17	子どもは高校生らしい服装、頭髪、言葉遣いをしている。	3.3	40%	50%	7%	1%	1%	A
18	子どもは登下校時や授業の開始、終了時に積極的に挨拶をしている。	3.1	33%	47%	16%	2%	1%	A
19	子どもは、毎朝朝食をとり、生活のリズムが一定している。	3.3	50%	36%	11%	2%	1%	A
20	子どもは進路指導の行事に積極的に参加している。	2.9	19%	43%	25%	4%	9%	C
21	子どもの将来の進路志望について自分は理解している。	3.0	26%	49%	18%	2%	4%	A
22	子どもは進路の適性をよく理解している。	2.9	20%	47%	21%	3%	9%	B

煌めく青春南関東総体2014(インターハイ)・全国大会結果

クラブ名	期日	開催場所	成績
空手道部	8月1日〜8月4日	千葉県印西市松山下公園総合体育館	・女子個人形　清水　那月(F2-7) 準優勝 ・女子団体組手　1回戦敗退 ・男子個人組手　川崎　紘史(F2-9) 1回戦敗退
アーチェリー部	8月1日〜8月4日	ゼットエーオリプリスタジアム	・男子個人　星野　光亮(F3-7) 17位　山本　新(S3-2) 33位 堀口　祐太(F3-7) 86位　深町　圭(S3-2) 100位 ・男子団体　6位 ・女子個人　佐相　花奈(F2-10) 3位
フェンシング部	8月1日〜8月5日	神奈川県立スポーツセンター	・男子個人フルーレ　久保田椋也(F3-8) ベスト16 ・男子個人エペ　久保田椋也(F3-8) ベスト16 ・女子個人フルーレ　新井はるか(F3-11) 7位入賞 登坂　梨乃(F2-11) 2回戦敗退 ・女子個人エペ　登坂　梨乃(F2-11) ベスト16 ・女子個人サーブル　大木　彩(S2-1) 予選敗退 ・女子学校対抗　2回戦敗退 新井はるか(F3-11)・登坂 梨乃(F2-11)・大木　彩(S2-1) 遠藤　里菜(F1-6)・長壁 伶奈(F1-8)
バトン部	7月27日〜7月29日	茨城県つくば市街地、ひたちなか市総合運動公園総合体育館	第38回全国高等学校総合文化祭 パレード部門、マーチングバンド・バトントワリング部門 文化連盟賞
放送部	7月21日〜7月23日	東京オリンピックセンター	第61回ＮＨＫ杯高校放送コンテスト　準々決勝
	7月29日〜8月3日	茨城県日立シビックセンター	第38回全国高等学校総合文化祭　放送コンクール ・オーディオピクチャー部門　優秀賞「野菜に愛を込めて」 ・ビデオメッセージ部門　文化連盟賞「伝統の味を継ぐ」
囲碁部	7月22日〜7月23日	東京日本棋院会館	第38回文部科学大臣杯全国囲碁選手権大会 ・女子団体戦　1次リーグ敗退 ・女子個人戦　吉澤　紗希(F3-4) 1次リーグ敗退
文芸部	8月28日〜8月30日	盛岡劇場姫神ホール	第９回全国高校生短歌大会　短歌甲子園2014　1次リーグ敗退

編集後記

八月上旬、毎日四十度近い猛暑の日が続いた。「外は晴れだ」ということは、論理的に理解可能な事実である。本校の多数の運動部・文化部の生徒が全国大会に出場し、上位入賞の好成績を残した。有意義な結果を残した生徒にとっては、ギラギラの太陽の光に幸せを感じた生徒もいたはずだ。一方、受験を控えた三年生の中には、目標に向かって立てた計画を実行できずに、寝苦しい夏をもたらす太陽の光に不幸を感じた生徒もいたかも知れない。感じ方の違いを論理的に理解することは不可能である。しかし、全国大会の好成績を上げた友達の話を聞き、太陽の光に幸せを感じるという、まるで同じ体験を味わっているような錯覚を自分の中に了解することも出来る。

ヴィトゲンシュタインは、論理的な空間における事実こそが世界である。語り得ぬものには沈黙しなければならない。言葉で語ることのできないものがあるが、それらは自らを開示する。それは神秘である。と述べている。他者の体験を自分の中に再体験し、幸福の光を感じることは神秘である。難解な哲学を日常の中に思考してみたい。

創立者の佐藤夕子先生は「親愛」の実践を校訓の第一項目に掲げられた。感謝し奉仕の実践に努めること。人生におけるあらゆる利用価値を捨て去り、人生の存在そのものを見る。自我を捨て去り、感謝し奉仕する。感謝し奉仕することに幸福を感ずるということではないだろうか。

最後に、「商大附高だより74号」に寄稿頂きましたご父母の皆様及び先生方には感謝申し上げます。

(牧口)

高崎商科大学附属
高等学校
マスコットマーク